



「梅雨の晴れ間」

あじさいの部 銀賞 日野市 小山 乾

山 報

高幡不動尊

一心祈願 疫病退散

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉 田 純 一

前号（第一一〇号）の山報の巻頭において「新型コロナウイルスに思う」と題し、この疫病に対する不安と、終息へ向かうようにとの願いを述べさせていただきました。しかし、いまだ流行は収まることなく、四月七日には七都府県に、十六日には全国に緊急事態宣言が出され、五月十二日現在、世界では四百万人以上の感染、死者に至っては三十万人近くの人が亡くなっています。

節分会の豆撒式、そして二月十一日までの迎春期間を無事に終え、「ホッ」としたのもつかの間、わたしは三十七度以上の熱が出て、新型コロナウイルスではないかと心配を胸に、近くの病院にて診察を受けると、ただの風邪と言われ胸をなでおろしました。自身の気の緩みを反省し、改めて新型コロナウイルスの予防と気を引きしめ直したのでした。

その後、当山ではゴールデンウィーク中の春季大祭国宝まつりや五月大祭の諸行事を、やむを得ず中止とすることを決め、現在山内は、大日堂などの諸堂をはじめ、五重塔の休憩所、奥殿、交通祈願受付所、お土産店等を閉鎖しており、不動堂と宝輪閣（お護摩受付所）、寺務所のみ午前九時より午後四時まで開けています。ご参拝のご信徒のみなさまには、諸行事の中止により残念な思いをさせるとともに、大変ご不便をおかけ致しております。

緊急事態宣言により、人との接触を八割減らすことが求められていますが、結果、社会活動や経済活動、人々の生活に多大な支障が及んでいることを目の当たりにし、この社会は多くのひととのつながりによって成り立っていることに、改めて気づかされています。

今はただ、高幡のお不動さまの威神力と、わたしたちの祈りの力を信じ、みなさま方の健康と日々の安寧、そして新型コロナウイルスの一日も早い終息を願っています。

「南無大聖不動明王 一心祈願疫病退散」

お不動さまの心——(一〇九)

現代の世相から (69) 廣 澤 隆 之

夜の暗闇の中で東の空がやや明るみを帯びる未明の時分、静まりかえった中で清冽な空気に触れるとえも言われぬ気分になります。お釈迦さまが菩提樹下で悟りを開かれたのも、弘法大師が室戸の岬で神秘体験をしたのも、明けの明星が輝く未明であつたとされます。お釈迦さまや弘法大師の故事を念頭におけば、清らかな未明の空気は聖なる世界を私たちに示しているように思えてなりません。今から三十年ほど前に見たイタリアのベルトリッチ監督の映画「リトル・ブッダ」では、お釈迦さまが悟りを開くこの静寂な薄明かりの中で小鳥のさえずりが夜明けと悟りを象徴する場面となつていたので印象的であつた記憶があります。

この光景に向かって深呼吸をし、私は本堂でのお勤めをするのが日課になつています。夜明けの景観に見える聖なる世界は薄暗い本堂の中では仏さまの姿形となつて私の前に現れます。自然界の清冽な世界は仏さまの聖なる世界でもあるのです。このような世界を味わいつくすことで、私はそれなりに満足できます。しかしはたしてこの仏さまの世界を喜び味わうだけでよいのか、いつも自分を省みてしまします。

えずりを聞かせているのです。その小鳥たちを食べる禽獣も生息します。小鳥の巢の卵をねらう蛇もいます。山の中はまさしく弱肉強食の生の欲求がしのぎを削る残酷な場でもあるのです。自らが生きるためには他を犠牲にするという、生きることの矛盾した根本問題が自然界を支配しているといつても過言ではないでしょう。

私たちはこのような残酷で矛盾をはらむ世界を遠くの景色として眺めて心地よさを感じているのでしょうか。私が朝ぼらけの中に感じる聖なる世界も幻想なのかもしれません。私は現実を離れて自然界の中に自分を溶け込ませた心地よさを味わっているだけかもしれません。

以前に述べましたように、近年頻発する感染症は人類の文明のあり方に関係すると私は考えています。人と物の移動を全世界規模で行う経済活動は感染症などの災厄を世界規模にする危険をはらんでいます。まさにその危険にさらされて私たちは今の時代を生きなければならぬようです。

多くの人が新型コロナウイルス感染症の流行の中で苦しんでいます。私たちがは山の木々の美しい緑の葉を食べようとして小鳥に啄まれる小さな虫のような存在なのかもしれません。自衛をするのは葉陰に隠れる尺取り虫なのかもしれません。



「愛染明王像」
鎌倉時代

しみの中で、深い呼吸をし、自らを遠くから見つめなおし、そして次には深く心の奥底まで見通せば、私たちは困難を克服する力を得ることができると思います。なぜなら大きな世界を実感すればおのずから仏さまへの祈りとなります。その力が大事です。

新型コロナウイルス感染症のため、さらに経済は冷え切つてしまふ予感がします。このような状況になりつつある中で、私は両親の世代の生き方を思い浮かべます。先の大戦で壊滅した中で生きる勇気をもって困難を克服し、豊かさを次代に伝えた人たちの苦勞を偲びたいと思います。

私が幼い頃、人びとはおしなべて貧しい生活をしていました。近在の農家の人たちは裏山の観音堂に祈りを捧げるためにいつも上がってゆきました。また二十八日にはお不動さまに祈っていました。貧しさのなかで、聖なる世界を大事に心に抱いていたように思えます。私たちも小さな虫のような自分を大きな世界のなかで見つめなおして明日を生きる力を得たいものです。

廣澤隆之先生のプロフィール
● 大正大学名誉教授
● 浄福寺住職

ご 奉 納 御 礼

左記ご奉納頂き大変有難く厚く御礼申しあげます。

(敬称をすべて省略させていただきます)

境内整備緑化資金

寄進者芳名

(令和二年二月一日～四月三十日)

日野市 田倉 康子
彦根市 西澤 政男
(三回)

幟旗奉納者芳名

(令和二年二月一日～四月三十日)

世田谷区 高橋 典子

調布市 柴田 和男

立川市 大森 久美子

二本 日野市 安川 武雄

日野市 有泉 雅弘

八王子市 木村 茂代

相模原市 前田 健

相模原市 水 希

二本 山梨県 佐野 千尋

二本 長崎県 夫津木 浩子

千体地藏尊

奉安者芳名

(令和二年二月一日～四月三十日)

松戸市 黒川 浄慧

小金井市 鴨下 好江

八王子市 原田 薫

町田市 横田 忠

二体 川崎市 大原 英子

大提灯奉納者芳名

(令和二年二月一日～四月三十日)

渋谷区 株式会社京王百貨店

西東京市 藤原 浩

一、品名 ムサシアブミ

(一株)

奉納者 日野市

今井 健 司

疫病退散大護摩供毎座勤修

新型コロナウイルス感染症に罹患された方々の快復と一刻も早い終息を祈念しております。

「在宅写経」のすすめ

高幡不動尊では檀信徒の皆さまにご自宅で作る写経用紙をご用意しております。時節柄、ご自宅にいる機会が多い時に、ご自身の修養の為に写経を始められる事をおすすめします。

写経用紙 一卷 貳千円(送料 参百円)

写経用紙を郵送でご希望の方は、電話又はファックスで高幡不動尊事務局までご連絡下さい。写経用紙と一緒に払込取扱票を同封しますので、郵便振込でお支払い下さい。振込手数料は無料です。(複数巻ご希望の方は電話でご連絡下さい)

電 話 〇四二(五九一) 〇〇三二

ファックス 〇四二(五九三) 三〇三八

※ファックスでお申し込みの方は、当山のホームページから申込書を印刷してご利用下さい。

※書き終わりました写経用紙は、当山にご返送下さい。写経用紙は当山のご本尊・不動明王様の御宝前にご奉納させていただきます。

〓 献花のすすめ 〓

お花講 講員の募集

当山ではお花講講員の皆さまの方の会費により、山内全ての伽藍のお花を飾らせていただいております。毎年秋季大祭大般若会(九月二十八日)に御招待(法話・大般若会参加・お護摩札授与・精進料理接待)致します。大勢様ご入講下さいますようご案内申し上げます。

記

一、名 称 高幡山お花講

一、会 費 一ヶ月 五〇〇円

※入講は随時承っております。

ご入講の皆様には輪袈裟を授与します。





疫病退散・信徒安全を祈願 4/26

高幡不動尊 フォトニュース



仁王様もマスクを着用 4/21



千体地藏尊総回向法要 4/29



大般若転読会付大護摩供 4/26



東日本大震災慰霊の鐘 3/11



九重紫紅



九重てまり



海 峡



土佐の大盃

今年のあじさいは
写真でお楽しみ下さい



七人の小人



千代の光



白 心

掲
出

短
歌

選
者

締
切

投
稿
先

入
花
料

用
紙

応
募

兼
題

あじさいまつり

俳句・短歌作品募集

高幡不動尊境内及び門前町の四季囀目
(未発表作品に限る)

一組 二句又は二首(一人何組でも可)
規定の用紙又は二〇〇字詰め原稿用紙
(B5版)使用のこと。

投稿時納入 俳句・短歌とも
一組一〇〇〇円

〒一九一―〇〇三一 日野市高幡七三三
高幡不動尊あじさいまつり事務局宛
令和二年七月七日まで(当日必着)

選者(肩書等略・五十音順)

大久保白村・大竹多可志・柏田 浪雅
才野 洋・笹木 弘・鈴木 貞雄
鈴木 節子・高橋 悦男・棚山 波朗
星野 高士・矢島 艶子の諸先生
大河原淳行・狩野 一男・長澤 ちづ
松坂 弘の諸先生

入選作は九月末まで宝輪閣又は五重塔々院
に掲出



防長の暁



「夏を育む」
あじさいの部 銅賞 海老名市 清水 進

夏の行事案内 (六月～八月)

◇六月

○14日(日) フリーマーケット

○15日(月) 青葉まつり (弘法大師・興教大師ご生誕慶祝法要
午後二時より山内僧侶のみにて法要 於大日堂

○21日(日) ござれ市 (がらくた市) (雨天決行)

○24日(水) 千体地藏尊月例法要

○28日(日) 午後二時より山内僧侶のみにて法要 於千体堂
月例祭 (ご縁日)

◇七月

○12日(日) フリーマーケット

○15日(水) 孟蘭盆会法要 (午前五時) 於 大日堂

○19日(日) ござれ市 (がらくた市) (雨天決行)

○21日(火) 月例写経会 (午後一時三十分)

○24日(祝) 千体地藏尊月例法要 (午後二時)

○28日(火) 月例祭 (ご縁日)

◇八月

○15日(土) 孟蘭盆会大施餓鬼法要

○16日(日) 午後二時より山内僧侶のみにて法要 於大日堂
ござれ市 (がらくた市) (雨天決行)

○21日(金) 月例写経会 (午後一時三十分)

○24日(月) 千体地藏尊月例法要 (午後二時)

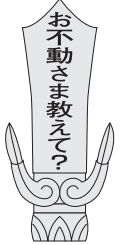
○28日(金) 月例祭 (ご縁日)

あじさいまつり

諸行事中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年
のあじさいまつりは、俳句・短歌の募集を除く諸行事
を中止致します。

お不動さま教えて?



ご質問 お不動さまの境内で
聞こえてきた歌は何なのでしょう
ようか? その歌詞と意味が
知りたいと思います。どうか
お不動さま教えてください。
(前号からのつづき)

お答え はい、お答え
いたします。前号では、
聞こえてくる歌は《御
詠歌 (ごえいか)》と
称される仏教の讃歌で
あるということ、また
その成り立ちについて
お答えいたしました。
そこで今号では、歌詞
の意味についてお話し
たいと思います。

さて、真言宗智山派

の密厳流には六十以上の曲が
ありますが、大師堂と五重塔
地下の休憩所では、その中か
ら弘法大師空海と興教大師
覚鑑のご遺徳を詠んだ十六曲
ほどを流しています。そこで
前号にご紹介した以下の二つ
の歌詞について、その意味を
お話ししていくことにいたしま
しょう。



弘法大師像

真言宗の宗祖、弘法大師空
海は承和二年(八三三)に、
高野山の地で御入定されま
した。その後、七日ごとに弟
子たちが奥の院に参ると、結
跏趺坐されたそのお姿は、ま
るで生きているかのようであ
りました。それは、お大師さ
まが立てられた「虚空尽き、
衆生尽き、涅槃尽きなば、我

五(一二二五)が、高野山に
登拝された際に詠まれたと伝
えられているのが、

【弘法大師第一番詠歌】

有難や高野の山の岩蔭に
大師は今も在します
すなわち、「まことにあり
がたいことであります。お大
師さまは高野山の奥の院にお
いて、今も私たちをお済いつ
づけておられます」という意
味の歌であります。

さて、ある晩、醍醐天皇
(八八五～九三〇)の夢枕に
お大師さまが立ち現れ、詠ま
れたのが、

【弘法大師第二番詠歌】

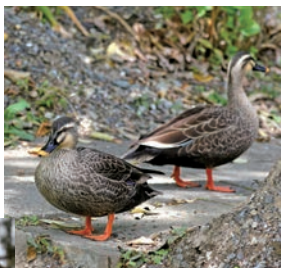
高野山結ぶ庵に袖朽ちて
苔の下にぞ有明の月
の歌です。その意味は、「私
空海は高野山にて入定したの
であるが、長い年月を経て私
の衣の袖は朽ち果ててしまっ
た。しかし、夜が明けてもな
お天空に残っている月のよう
に、私もまた苔むした岩蔭か
ら、今もなお衆生を済いつづ
けているよ」というものです。
このお話しには続きがあり
ますので、次号にてご紹介い
たします。(次号につづく)

高幡いきもの曼荼羅 ⑪

春から初夏にかけて、高幡不動尊の境内では鳥たちが繁殖のシーズンを迎えます。春浅いある日、珍しい鳥の鳴き声が裏山から聞こえてきました。声の主を探してみると、ハイタカのつがいが裏山の頂上付近に住みついていることが判明。営巣して雛が巣立つのが楽しみです。昨年無事巣立ったカルガモも現在弁天池で営巣し、雄鴨が抱卵中です。毎年繰り返される自然の営みの一つです。

ところで猛禽のハイタカは、恐らく裏山での生態系の頂点に位置するものと思いますが、面白いのはほぼ十年単位で、その頂点である猛禽達の種類が変わっていることです。二十年程前にはアオバズクが営巣しましたし、その後入れ替わるようにツミが住んでいました。そしてツミの後にはこうしてハイタカがやってきました。彼らは裏山の限られた資源を分け合いながら順番に生息しているようです。

昨今自然環境やビジネスを問わずサステイナビリティ、つまり持続可能なシステムが注目されつつあります。一見日常とかけ離れた概念のように思われますが、身近な高幡不動尊の裏山でも、昔から営まれていることなのです。



カルガモの夫婦



凜々しいハイタカ



紫陽花にとまるジョウビタキ

なにげなくつかっている仏教のことば——融通（ゆうづう・ゆづう）

「お金を融通する」といえば、金銭などを工面してあげることであり、「融通がきく」といえば、事にあたって、原則だけにこだわらずに臨機応変（りんきおうへん）に処理することができることをいいます。

仏教では、異なるものが融けあって、障りなく通ずることを融通といえます。ここに自由自在なる意味を見て取り、金銭のやりくりや臨機応変の意で融通の言葉が用いられるようになったと思われます。

また、無礙（むげ）という言葉もまた同様に、障りなく融けあい妨げが無いことの意味の語であり、両者を合わせて融通無礙なる語としても用いられています。

（小林靖典）

山内消息

正御影供法要 (321)

三月二十一日、大日堂において宗祖弘法大師空海上人のお姿をかがけ、正御影供法要を勤修し、報恩謝徳の誠を捧げました。

お大師さまは承和二年（八三三）三月二十一日に高野山奥之院にて永遠の禪定に入られました。それから八十六年後の延喜二十一年（九二一）醍醐天皇から「弘法大師」の諡号を賜りました。今年に諡号を賜ってから一一〇年目の佳年に正当します。

（伊大知記）

花まつり (418)

四月八日、お釈迦様のご生誕を祝う花まつり法要が勤修されました。花まつりとは、約二千五百年前にインド西域（現在のルンビニー）でお釈迦様がお生まれになった時、竜王が天から甘露の雨を降らせ、その誕生を祝福したという故事に倣い、誕生仏に甘茶を掛けお祝いをする行事です。

本来であれば、御参詣の皆様が、甘茶を振る舞う予定でしたが、感染症予防の為、残念ながら中止とさせていただきます。しかし法要には、たくさんの方が参列し、お釈迦様のご生誕を祝うと共に、その功德によって世界に平和をも

大般若転読会 (426)

たらしめて頂けるよう至心にお祈りを致しました。（森口記）

四月二十六日、不動堂において大護摩供付大般若転読会を勤修し、大般若波羅蜜多經六百巻を転読しました。転読の風にあたると病氣や災難が除かれると伝えられ、疫病退散、病氣平癒、無病息災、信徒安全を祈願致しました。

加藤信清筆

「阿弥陀三尊図」出張中

この度、東京都江戸東京博物館、山口県立美術館、あべのハルカス美術館に於て「奇才・江戸絵画の冒険者たち」と題した展覧会が開催となり当山から加藤信清筆の阿弥陀三尊図を出展することになりました。

本展は、従来の江戸絵画史において「異端」「奇想」と位置づけられた絵師に加え、俵屋宗達、尾形光琳や、円山応挙、葛飾北斎らも既成の枠を打ち破った「奇才」の絵師として見つめ直すことで、新しい江戸絵画史の提案を試みようとするものです。

開催日時等、詳しくは各美術館、博物館へお問い合わせ下さい。



阿弥陀三尊図

皆様からのお便り

多摩八十八ヶ所巡拝

春、夏、秋、遍路四季

八王子市 川幡 俊一

八月巡拝(十三ヶ所参拝)

(あきる野市・檜原村

八王子市・日野市)

今日は曇空ですが台風十三号の影響もなさそう、不動尊境内も残暑の中、蝉の鳴声が静けさのなか響き渡っていました。老人にはこたえる高尾山薬王院参拝ですが、道中会話しながら三十分程で参拝を終える事が出来ました。

(令和元年九月五日)

八月巡拝初日の今日は朝から猛暑、高幡不動尊をお参り前に池の蓮の花が例年以上に咲き誇り素晴らしいお花でした。不動尊の境内をお参りして、セミ時雨と大日堂から聞こえる読経に癒されました。



「九月の花園」

四季の部 銅賞 八王子市 真次 弘

今日の参拝は全体的に山間のお寺が多く暑いお参りですが、本堂でお経をあげていると時折涼しい風が身体を癒してくれます。各寺院様のご好意で、玄関先、庭の前までバスを付けていただき、歩くことが少なく高齢者は助かります。

(令和元年八月一日)

九月巡拝(十六ヶ所参拝)

(八王子市・昭島市

日野市)

火曜日組は後半、台風の影響の大雨で大変のようでした。

十月結願

(高幡不動尊)

境内の山内八十八ヶ所参拝・ご法話・結願大護摩供・お授け・精進料理、毎年の事です。多摩八十八ヶ所のお寺さん、高幡不動尊の皆様、運転手さん、心よりお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(令和元年十月二十一日)

令和三年

多摩八十八ヶ所

巡拝のご案内

龍華会では昭和四十六年より多摩八十八ヶ所巡拝を実施しております。お大師様を巡り世界平和と身体安全、併せてご先祖様の供養をお祈りされては如何でしょうか。

初めての方でも先達のお坊さんの案内をいただきながら月一回の楽しい巡拝が出来ます。

ご知友誘い合せてご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

・巡 拝

令和三年四月～十月

毎月第一週の「火」「日」曜日

(五月は第二週・十月は

二十一日結願)

・会 費 四九、六〇〇円

(七回分)

(納経料・バス代・保険料等を含む)

・昼 食 各自持参

※詳しくは高幡山事務局内龍華会まで

電話〇四二五九一〇〇三二

御◆案内

交通安全祈願

午前九時～午後五時

午後四時半までにお申込下さい。

○ご祈願料 金三千円也

御護摩修行

○平日 八時・十時・

十一時半・一時・三時

○土曜・日曜・祝日

八時・十時・十一時半・

一時・二時半・四時

○但し一日、十五日の午前中は

五時・十時・十一時半

○ご縁日(二十八日)

五時・九時・十時・十一時・

十二時・一時・二時半・四時

○御護摩料

金参千円也

金五千円也

金壹万円也

(大護摩) 金参万円以上

ご縁日 毎月二十八日

フリーマーケット(リサイクル市)

毎月第二日曜日(雨天中止)

ござれ市(がらくた市)

毎月第三日曜日(雨天決行)

お焚き上げ

毎月十五日午前九時

月例写経会

毎月二十一日午後一時半

千体地藏尊月例法要

毎月二十四日午後二時

奥殿拝観(月曜休館)

午前九時～午後四時

拝観料 三〇〇円

編集室だより

大日堂 鳴り龍・襖絵拝観
午前九時～午後四時
参拝料 二〇〇円
(月曜休館)
※日時等の予定は変更となる場合があります。詳しくはお問い合わせ下さい。

コロナ禍のあおりでイベント等の自粛、緊急事態宣言でステイホームと未だ予断を許さない状態が続いています。山内も各種行事の中止、諸堂も拝観停止で、感染予防のためマスク着用、消毒液を各所に配置し予防に努めています。秋以降の行事が開催できるか心配です。

早急な収束、感染死亡者の冥福、感染者の快癒、医療従事者への感謝等々、早く平穏な日々が来るようお不動様に祈る毎日です。

発行所

〒191-0031 東京都日野市高幡733

別 格 本 山

高 幡 山 金 剛 寺

電話 (042) 591-0032(代)

FAX (042) 593-3038

発行人 黒川 高 徳

編集人 年 4 回発行・再生紙使用